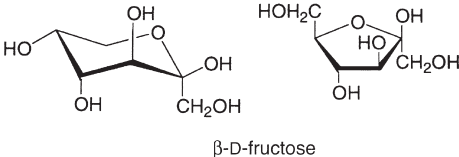
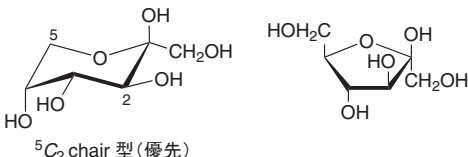
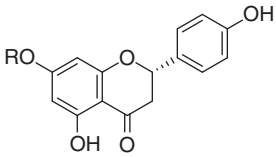
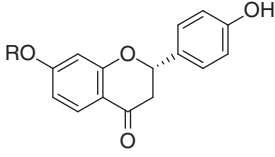
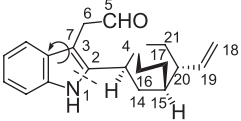
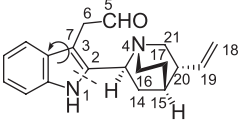
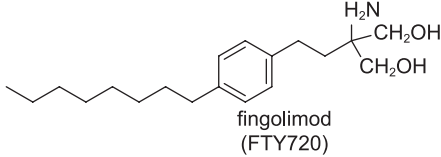
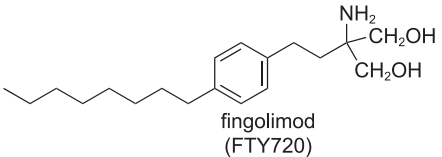
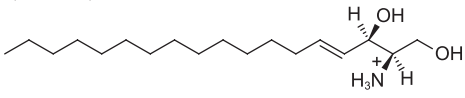
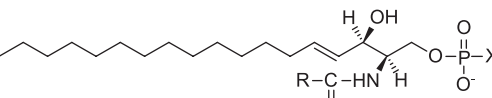
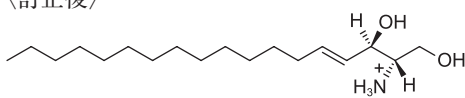
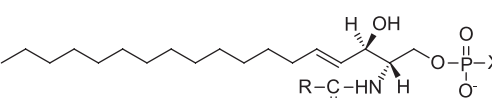
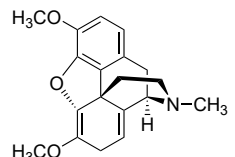
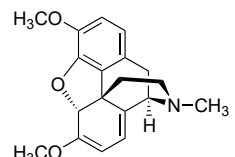


頁・行	誤	正
p. 9 ↑ 11~13	発効したが、2016年現在、日本は締結国にはなっていない。製薬、バイオ産業、種苗、食品業界や学術研究の分野にも影響が大きいため、慎重に議論が進められている。	発効した。日本に関しては、製薬、バイオ産業、種苗、食品業界や学術研究の分野にも影響が大きいため、慎重に議論が進められ、2017年に締結国となった。
p. 65 ↑ 7 ↑ 6	S体には R体には	R体には S体には
p. 78 図5.7 下段中央 構造式	$3 \times C_2 + C_6C_1$	$3 \times C_2 + C_6C_3$
p. 80 5.3.3 説明文 ↑ 3	anthranic	anthranilic
p. 80 図5.9 ↑ 2の 構造式右側	anthranic	anthranilic
p. 93 (2)-4)に 追記	多糖イヌリンの構成糖。	多糖イヌリンの構成糖。D-フルクトース水溶液では、 β -ピラノース型 (5C_2) が優先配座である。
p. 93 構造式右下	 <p style="text-align: center;">β-D-fructose</p>	 <p style="text-align: center;">5C_2 chair 型 (優先) β-D-fructose</p>
p. 97 構造式上 中央説明	α-D-galactopyranosyl-	α-D-glucopyranosyl-
p. 103 図6.11 構造式右	グリチルレチン酸	グリチルリチン酸
p. 128 図8.3 構造式中央	humulene caryophyllene	humulane caryophyllane
p. 139 8.3.3 の (1)	チグラン (Tiglane) 型	チグリアン (Tigliane) 型
p. 145 (5)-3)	グリチルレチン酸 (Glycyrrhetic Acid)	グリチルレチン酸 (Glycyrrhetic Acid; Glycyrrhetic Acid)
(5)-3) 説明文 ↓ 2	サポニン成分グリチルリチン (glycyrrhizin) の	サポニン成分グリチルリチン酸 (glycyrrhizic acid) [グリチルリチン (glycyrrhizin)] の
p. 150 8.6.3-1)	グリチルリチン (Glycyrrhizin)	グリチルリチン酸 (Glycyrrhizic Acid) [グリチルリチン (Glycyrrhizin)]
p. 180 図10.4 構造式中段	favanonol favonol	flavanonol flavonol

頁・行	誤	正
p. 181 下段 構造式右側	 <p>liquiritigenin R=H liquiritin R=Glc</p>	 <p>liquiritigenin R=H liquiritin R=Glc</p>
p. 197 3)	D-シクロセリン (D-Cycloserine)	サイクロセリン (Cycloserine) [D-シクロセリン (D-Cycloserine)]
p. 225 図12.11 構造式 中央	 <p>precursor 4</p>	 <p>precursor 4</p>
p. 248 13.4 説明 1 行目	とも知られている。	としても知られている。
p. 251 ↓ 12	(F), 台糖 (T), 吉富製薬 (Y)	(F, 当時), 台糖 (T, 現三井製糖), 吉富製薬 (Y, 現田辺三菱製薬)
p. 251 構造式右側	 <p>fingolimod (FTY720)</p>	 <p>fingolimod (FTY720)</p>
p. 251 ↓ 1~ p. 252 ↑ 1	①高コレステロール ≥ 220 mg/dl 以上, ②高 LDL (低比重リポタンパク) ≥ 140 mg/dl 以上, ③低 HDL (高比重リポタンパク) < 40 mg/dl 未満, ④高トリグリセリド	①高 LDL (低比重リポタンパク) ≥ 140 mg/dl 以上 (境界域高 LDL コレステロール血症 $120\sim 139$ mg/dl 以上), ②低 HDL (高比重リポタンパク) < 40 mg/dl 未満, ③高トリグリセリド
p. 263 コラム ↑ 3~↑ 5	実際に, 皮膚 T 細胞性リンパ腫の抗がん剤として, Vorinostat/Zolinza (一般名/商品名) (2006 年アメリカ, 2011 年日本承認) と日本発の Romidepsin/Istodax (2009 年アメリカ承認, 日本は 2016 年現在承認申請中) として実用化された。	実際に, 皮膚 T 細胞性リンパ腫や末梢性 T 細胞リンパ腫の抗がん剤として, Vorinostat/Zolinza (一般名/商品名) (2006 年アメリカ承認, 2011 年日本承認), Belinostat/Farydac (2014 年アメリカ承認), ならびに Romidepsin/Istodax (2009 年アメリカ承認, 2017 年現在日本では申請中) として実用化された。また, Panobinostat/Farydak (2015 年アメリカ承認, 2015 年日本承認) は, 多発性骨髄腫に適応されている。
p. 274 ↑ 1	4) サイクロセリン (Cycloserine)	4) サイクロセリン (Cycloserine) [D-シクロセリン (D-Cycloserine)]
p. 296 ↓ 4	(図 16.3)	削除
p. 297 ↑ 7~8	……つくられたもので, 多様な成分を含んでいる。アルテピリン C	……つくられたもので, 地域や起源樹により多様な成分を含んでいる。キク科植物 <i>Baccharis dracunculifolia</i> から成るブラジル産のプロポリスに含まれるアルテピリン C

頁・行	誤	正
p. 298 コラム内 ↑ 4	ジヒドロベルガモチン	ジヒドロキシベルガモチン
p. 306 4)	グリチルレチン酸(Glycyrrhetic Acid)	グリチルレチン酸(Glycyrrhetic Acid; Glycyrrhetic Acid)
p. 306 4)の 2行目	とするグリチルリチン (glycyrrhizin)	とするグリチルリチン酸 (glycyrrhizic acid) [グリチルリチン (glycyrrhizin)]
p. 337 参考文献 10)	阿部郁郎	阿部郁朗

頁・行		
p. 110 7.2.2 構造式	<p>〈訂正前〉</p>  <p>sphingosine</p>	 <p>X =choline (sphigomyelin), ethanolamine</p> <p>〈訂正後〉</p>  <p>sphingosine</p>  <p>X =choline (sphigomyelin), ethanolamine</p>
p. 213 図12.6 最下段	<p>(誤)</p>  <p>thebaine</p>	<p>(正)</p>  <p>thebaine</p>